

平成 29 年度第 1 回尼崎市食育推進懇話会議事録

日時	平成 29 年 9 月 4 日(月)午後 3 時～5 時
場所	尼崎市保健所 集団指導室
出席者	内田委員、奥田委員、中川委員、中西委員、中根委員、西村委員、服部委員、増岡委員、三浦委員、水内委員、緑委員、吉井委員、由田委員、砂川氏(山田委員代理) (以上出席 14 名)
欠席者	高谷委員
事務局 拡大事務局	保健部(檜垣部長) 健康増進課(森田課長、長谷川係長、中川係長、辻野、清永(記録)) 保育指導担当(代理 川島係長)、農政課(松本課長)、学校教育課(高橋課長)、 学校保健課(村田課長)
内容	1 委員紹介、職員紹介 2 説明 ・これまでの食育の取組の経過について ・食育推進懇話会の運営について 3 議題 (1) 「毎日朝食を食べるあまっこを育てる」取組み展開について (2) 食育推進計画(第 2 次)の進捗状況について ・尼崎市地域健康づくりアンケート結果から 4 その他
資料	・平成 29 年度第 1 回尼崎市食育推進懇話会次第 資料 1: 尼崎市食育推進懇話会委員名簿、尼崎市食育推進懇話会設置要綱 資料 2: 尼崎市食育推進検討会議委員名簿、尼崎市食育推進検討会議設置要綱 資料 3: 尼崎市の食育推進計画の経過 資料 4: 「毎日朝食を食べるあまっこを育てる」取組み展開 資料 5: ひょうご食育月間にあわせた食育の取組み 資料 6: 第 2 次食育推進計画評価指標 資料 7: 食育推進計画(第 2 次)の進捗状況 ・第 2 次尼崎市食育推進計画概要版 ・リーフレット「赤黄緑 3 つのグループをそろえて食べて元気な体を作ろう！」 ・第 2 次尼崎市食育推進計画冊子(各自持参)

開会挨拶

事務局	皆様、本日はご多忙のところ、懇話会にご出席いただき、誠にありがとうございます。 尼崎市では、「食」について、単にお腹を満たすということにとどまらず、ヘルスアップ戦略担当の「毎日 350g の野菜を食べよう」という取組みを含め、「栄養バランスに気をつける」や、「一人
-----	---

	<p>で食べるのではなく、家族や親しい方と一緒に食べる(共食)」ことについての取組みもすすめております。</p> <p>委員の皆様の中には、高齢者の会食の場のお世話をいただいている方や、市内でも広がりを見せているこども食堂の活動に携わっている方、尼崎市に古くから伝わる伝統野菜を次世代に伝えていくことに取り組んでおられる方等がいらっしゃるかと思います。「食」は、以前に比べて非常に幅広い観点で捉えられるようになりました。本日は、「毎日朝食を食べるあまっこを育てる」取組み展開について、また、第2次尼崎市食育推進計画の進捗状況について、幅広い観点で委員の皆様のお力やご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>どうぞよろしくお願い致します。</p>
--	--

1. 委員紹介、職員紹介(資料1)

事務局	<p>本日は、任期1年目、第1回目の懇話会ですので、資料1の名簿の記載順に委員のご紹介をさせていただきます。一言ずつ、ご挨拶をお願いいたします。</p> <p>尼崎市医師会 代表 中川勝委員です。</p>
委員	<p>尼崎市医師会の中川です。尼崎で内科医として勤めており、適塩化運動にも取り組んでおります。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>園田学園女子大学人間健康学部教授 三浦加代子委員です。</p>
委員	<p>園田学園女子大学の三浦と申します。前期に引き続きよろしくお願い致します。地元の大学ですので、学生がいろいろお世話になるかと思います。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>尼崎市歯科医師会 代表 水内若菜委員です。</p>
委員	<p>尼崎市歯科医師会の水内と申します。今回、このような会に参加するのは初めてですので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>大阪市立大学大学院生活科学研究科教授 由田克士委員です。</p>
委員	<p>大阪市立大学の由田でございます。前期も委員として参加させていただいておりました。引き続きよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>尼崎市農業委員会 代表 西村昌浩委員です。</p>
委員	<p>尼崎市農業委員会より推薦を受けました西村と申します。以前より、委員として参加させていただいております。体を動かすことについては一生懸命やっていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>コープこうべ 代表 コープ立花店長 緑淳史委員です。</p>
委員	<p>私どもコープこうべでは、食品の供給をメインにしておりますが、それ以外にも、食に関わることとして、こども食堂やフードロスの問題などの社会課題にも取り組んでいます。少しでも地域に貢献できるように力を発揮できればと思っております。どうぞよろしくお願い致します。</p>
事務局	<p>尼崎商工会議所 代表 吉井佳子委員です。</p>
委員	<p>私は塚口でアrikui食堂という食堂をやっています。初めて参加させていただいており、また、有識者の方ばかりで緊張しています。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>園田北まちづくり協議会 代表 内田大造委員です。</p>

委員	内田です。私も今年度初めてですので、よろしくお願い致します。食育の観点から地域で行っているいろいろな活動を紹介するとともに、また私自ら、猪名川町で 1600 坪の農地で野菜を栽培していますので、そのような角度からも貢献していきたいと思っています。よろしくお願い致します。
事務局	食育サポーターの会 代表 山田政子委員は本日ご欠席です。 代理で、砂川溪さんにご出席いただいております。
委員	食育サポーターの会は、尼崎市内で食育活動をしている自主活動のグループです。具体的には、保育所や幼稚園、児童ホームやこどもクラブ、小学校、中学校、高校等で、子どもたちに紙芝居やオリジナルの人形劇を用いて食の大切さを伝える活動をしています。よろしくお願い致します。
事務局	尼崎市 PTA 連合会 代表 高谷浩司委員は本日ご欠席です。 尼崎市私立幼稚園連合会 代表 中西利栄委員です。
委員	尼崎市私立幼稚園連合会 会長、くいせようちえん 園長の中西と申します。くいせようちえんは平成 27 年度から幼保連携型の認定こども園となりました。これまでも委員として参加させていただいていますが、幼稚園で 3 歳以上のみの子どもを預かっていた時に比べて、0 歳からの食、食の大切さについてより考えるようになりました。「食べる」ことが嫌いにならないように幼児期にすべきことは何かを考えながら、子どもたちが「食べる」ことが好きになり、毎日楽しく過ごすことができるように取り組んでいます。また、私立幼稚園連合会としてご協力できることについても継続していきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。
事務局	尼崎市小学校長会 代表 中根孝介委員です。
委員	尼崎市小学校長会より推薦されました、尼崎市立浜小学校 校長の中根です。前期に続き、よろしくお願い致します。小学校では、ご存知のとおり給食を提供しています。安全・安心ということはもちろんのこと、栄養バランスがとれていること、また、先ほどのご挨拶にもありましたように、共食をすることによって子どもたちにとって楽しい時間となるよう、教育委員会や給食協会等の協力を得ながら実施しているところです。今後ともよろしくお願い致します。
事務局	尼崎市立保育所 代表 服部邦子委員です。
委員	尼崎市立保育所 代表、尼崎市立七松保育所 所長の服部です。この会は初めての参加ですので、いろいろなことを学ばせていただき、保育所への実践に活かしていきたいと思えます。よろしくお願い致します。
事務局	市民委員 奥田千代美委員です。
委員	奥田です。上坂部で子育て支援に関する仕事をしています。昨年度より、こども食堂の方もお手伝いさせていただくことになり、食育にも関心がありましたので、今回初めて応募させていただきました。初めての参加で緊張しておりますが、どうぞよろしくお願い致します。
事務局	市民委員 増岡貞彦委員です。
委員	私は尼崎市スポーツ少年団の本部長をしています。現在、団員 1103 名、指導者 383 名と約 1500 名で活動しています。近頃、子どもたちの朝食の問題が深刻となっておりますし、夏場は熱中症対策も問題になっています。個人的には、12、3 年前に 60 歳以上の定年後の方を対象にした「男の料理教室」を立ち上げ、現在 23 名の会員で毎月 1 回、在宅栄養士会の方に講師をお願い

	<p>して活動しています。その活動を行うようになって、私自身の食も変わってきたと感じています。</p> <p>子どもたちと高齢者の両方に関わりながら、今後も活動を続けていきたいと思っています。よろしくをお願いします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。委員の皆様、2年間どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして、事務局の職員紹介を行います。</p> <p>拡大事務局として、生活安全課長の仁尾は本日欠席となっておりますが、保育指導担当係長の川島、学校教育課長の高橋、学校保健課長の村田、農政課長の松本が出席しております。</p> <p>事務局として、保健部長の檜垣、健康増進課栄養管理担当係長の長谷川、栄養・歯科指導担当係長の中川、管理栄養士の辻野、清永、そして私は、健康増進課長の森田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p>

2. これまでの食育の取組の経過について

食育推進懇話会の運営について(資料3、第2次尼崎市食育推進計画概要版)

事務局	<p>今年度初めての懇話会ですので、これまでの食育の取組の経過について、また、食育推進懇話会の運営について、事務局より簡単に説明させていただきます。</p>
事務局	<p>(資料3: 尼崎市の食育推進計画の経過、第2次尼崎市食育推進計画概要版)</p> <p>まず、尼崎市食育推進計画が策定された背景について説明します。平成17年に、国が「国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむ」ことを目標に定めた食育基本法に基づき、翌年、食育推進基本計画を策定しました。平成28年度からは第3次計画と移り、食育を推し進めているところです。兵庫県でも平成19年に食育推進計画を定め、今年度からは第3次計画に基づいた食育を推進しています。</p> <p>尼崎市は、食育基本法に基づく市町村計画として、市の特徴や実態に応じた食育推進の方向性を示すために平成22年に第1次計画を策定しました。5年間、食育の推進に取組んだ結果、食育を啓発する機会や、食育に取組む組織や団体が増え、活動の場が広がるなど一定の成果を得ることができました。しかし、「食」に対する意識の変化や食生活の課題で新たに見えたものもあり、“実践”をコンセプトに、幅広い分野の関係者が連携・協働してさらなる食育に取組んでいくものとして、第2次計画を平成27年に策定しています。</p> <p>次に食育推進懇話会の運営について説明します。</p> <p>懇話会は年2回開催し、委員の皆様から食育推進についてご意見をいただいたり、情報共有を行っています。また、6月の食育月間、10月のひょうご食育月間を中心に、関係機関が連携して食育の実践、拡充に努めておりますのでよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>議題に移る前に、会長、副会長の選出を行いたいと思います。</p> <p>「資料1: 尼崎市食育推進懇話会設置要綱」第5条に基づき、本会の会長、副会長は委員の互選により定めることとなっておりますので、立候補、推薦をお願いします。</p>
委員	<p>前期、この会をすすめていただいた由田先生に今期も務めていただきたいと思いますがいかがでしょうか。副会長についても、前期務めていただいた三浦先生にお願いできればと思いますがいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>ただいま由田委員を会長に、三浦委員を副会長にとの推薦がありましたがいかがでしょうか。</p>

	<p>それでは、引き続き由田委員に今期の会長を、三浦委員に副会長をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
--	--

3(1)、「毎日朝食を食べるあまっこを育てる」取組み展開について(資料4、5)

<p>会長</p>	<p>「毎日朝食を食べるあまっこを育てる」取組み展開について、事務局の方から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>(資料4:毎日朝食を食べるあまっこを育てる)</p> <p>第2次計画の展開方針、「毎日朝食を食べるあまっこを育てる」をあげている背景として、尼崎市の場合、子どもの朝食欠食率が全国に比べて高く、その割合は年齢とともに上昇していること、また、成人に対してその欠食習慣が始まった時期を問うと、20代とする割合が最も高く、子育て世代になり得る世代にそのような習慣が始まっているということがあります。そのため、実践する力をつけるために、どこでも、誰でも、簡単に作れるということに重きをおき、地域にある場・機会や団体を活用して取組んでいこうと考えています。</p> <p>これまでの活動を継続している部分と、今年度新たに行っている部分に分けながら簡単に説明します。まず、「作る・体験活動」に関しては、昨年、大学との協働により市のホームページに掲載した「簡単！朝食レシピ」を活用し、子どもでもできるおにぎりや簡単なお味噌汁を作る体験活動を継続して実施しています。また、尼崎市産の野菜を使ったクッキングを体験できる場や、本会の西村委員の長年の取組みである小学生のお米づくり・稲作体験についての取組みも継続して実施されています。新しい取組みとしては、みんなのサマーセミナーの中で、「ひとりでもできるもん 夏休みごはん」と題し、園田地域の子育て支援団体やJAと連携して講座を実施しました。また、資源循環課では、企業(大阪ガス株式会社)と連携して、クッキングに加えて、食品ロスの削減や環境やエコについても知ってもらうような新たな取組みが実施されています。</p> <p>次に、「選ぶ」ことに関して、昨年度以降も継続的に、園田学園女子大学が持っている食育SATシステムを活用した取組みを実施していただいています。すでに実施したところでは、3月の食育フォーラム、5月の適塩化フォーラム、今後は、企業(株式会社クボタ)と連携した健康づくりイベントや、10月の学校給食展での活用を予定しています。また、健康支援推進担当では、未来いまカラダ戦略事業のひとつとして、公立幼稚園等で保護者を対象とした野菜についての授業、学習会が継続的に実施されています。</p> <p>3つ目に、「伝える・啓発」に関しての取組みです。昨年度までに引き続き、6月の食育月間には、市内の掲示版や関連機関に朝食に関する啓発するポスターやリーフレットを掲示、配布し、小学校給食や中学校弁当の献立表には、簡単にできる朝食レシピを掲載しました。新しい取組みとしては、食育月間に合わせて市のホームページの中の食育のページをリニューアルしています。この点に関してはスライドで説明したいと思います。</p> <p>(スライド説明)</p> <p>「簡単！朝食レシピ」のページはそれほど頻繁に更新はしていませんが、継続的にアクセスをいただいております。そのアクセス数から考えて、直接的なアクセスが多いことがわかっています。QRコード等を活用していることが、成果として出ているのではないかと考えています。この成果を受けて、「ライフステージに応じた食育」ページもPRをすすめています。</p>

	<p>以上のように、作る、選ぶ、伝えるの3つの視点で取組みを展開しているところですが、それぞれにおいて課題もみえてきています。作る取組みに関しては、このような場を増やすこと自体がなかなか大変というところです。場自体もそうですが、そこを担ってくれる人や活動を広めることができる人、協力いただける団体を増やすということに課題を感じています。選ぶというところでも同様であり、企業や地域、団体と連携できることがもっと他にないかなと感じています。そう言いながらも、これら体験するという場の提供については、食育に対する関心の程度や年代によって、そこに参加する人や機会に限界があるかと思います。そこで大事になってくるのが、伝えるという部分ですが、この取組みについて、より多くの人に見てもらうために、どのようなかたちにすれば見てみようという気になるか、委員の皆様のお知恵をお借りできればと思います。また、ここに関しては、取組んだことに対する評価や効果をどのようにみればよいのかということも課題としてあげられます。</p> <p>取組みに関するご意見やご質問、また、委員の皆様の活動と連携して広げられる取組みのご提案などをいただきたいと思います。説明は以上です。</p>
会長	<p>事務局からは、取組みについて様々な団体や場を活用して展開しているが、それをもう一ランクあげることが難しいという話であったかと思います。稲作体験など農業関係でご尽力いただいている西村委員からご意見いただけますでしょうか。</p>
委員	<p>これまで地元で農業をやってきましたが、初めは食育など難しいことはよく分かっていませんでした。それが、娘が小学校に通っている時に学校の先生から稲作体験について依頼されたのをきっかけに知るようになり、かれこれ10年以上その活動を続けています。</p> <p>事務局からの説明で協力団体がなかなか少ないとありましたが、地盤自体はできてきているのではないのでしょうか。例えばJAでは、地産地消や食農といったことに力を入れています。アプローチの方法によっては、それらを活かして良い活動ができると思います。また公民館では、そこに関わっている学校の先生のOBの方から、食育について何か活動をしてくれないかという依頼をいただくことが多いようです。</p> <p>3、4年前からは、小学校3年生の2学期から4年生の春にかけて一寸豆を栽培し、収穫した翌日には調理実習を行うという活動を行っています。子どもにとっておいしいとは言い難いものではないかなと思いますが、子どもたちは自分たちで収穫したものなので、おいしいと言いながら食べる姿がよく見られます。このような活動は何かヒントにならないでしょうか。子どもたちには、自分で収穫したものはおいしく感じるという素直さがあり、作ることから食べることまで一直線上に考えることができれば、良い活動ができると思います。</p>
会長	<p>尼崎市立保育所の服部委員はいかがお考えでしょうか。</p>
委員	<p>保育所でも菜園活動を実施しています。毎日の水やりや草抜きを積み重ねることで、最終的に収穫できたものは子どもたちにとっておいしく感じられるようです。調理師さんをお願いして給食として提供していただきますが、子どもには食べにくいかなと思われるゴーヤも、「ちょっと苦いけどおいしい」と言いながら食べている姿を見ると、そのような機会は大事なかなと思っています。以前には、成功させることは難しかったですが尼いもの栽培にチャレンジしたこともあります。</p>
会長	<p>子どもたち自身が収穫したものは食べ残しも少なかったりするのでしょうか。</p>
委員	<p>そうですね。</p>
会長	<p>こども食堂やサマーセミナーで関わっている奥田委員はいかがでしょう。</p>

委員	<p>私たちも何か栽培活動をしたいなと思ってはいますが、場所がないということが問題です。もしそのような機会を設けることができれば、子どもたちも楽しんで取り組むことができるとは思っていますが、現実的にはプランター程度でしか難しく、なかなか厳しいなということが悩みです。</p>
委員	<p>作る・体験活動について、武庫之荘あたりはわりと農地が多くあると言われています。他地域にはあまり農地がないからといって、増やそうと思っても、生産緑地法によってなかなか市民が参入しにくいという問題があります。</p> <p>しかし、体験農園を活用する方法はどうでしょうか。あるこども会で、会の活動についてどのような内容がいいのか、これまでの活動の見直しを行っているが、農地で子どもたちに野菜を栽培させたらどうだろうかという提案がありました。私はたまたまその話を聞いた後、ある農園に行ったら、高齢のためリタイアしたい、できれば若い人にやって欲しいという意向がありました。その後話がすすみ、現在 10 世帯がトマトやきゅうりなどの夏野菜を作っています。そのような体験を通して、子どもたちは野菜のことだけではなく、栽培のことや、虫なども多くいるので生態系のことまでも学ぶことができます。少しずつでもいいからということであれば、このような体験農園等の形はけっこうありますし、市民農園を活用するという方法もあります。法的な問題があるなかでも、体験活動をやりたい、やらせたいと思っている側がもっと積極的に場所を探す努力をし、貸してもらおう働きかけをするべきではないかと思えます。</p> <p>次に、こども食堂についてです。私たちは今年度、地域のコミュニティ食堂を開くことを決めています。高齢者の立場で考えるとお昼時の開催がいいし、子どもたちの立場で考えると夕食時の開催がいい。食堂は昼食か夕食時に開催することがほとんどで、朝食に関しては提供しているという話はあまり聞いたことがありません。本来は家で食べることができればいいですが、親が忙しくてなかなか朝食を食べる習慣がないという子どもたちや家庭に対して、学校に行く前に食堂に寄って朝食を食べてから学校に行くというような場作りができないかと考え、実施にむけて現在検討しているところです。子どもと大人と一緒に食事をするだけでなく、そのような場ではそこに会話もうまれます。こども食堂など地域のコミュニティにおいても、婦人会、老人会、自治会、社協、企業、学校等と連携しながら、もう少し食育の観点を取り入れて講座を開いたり、レシピを紹介したり、誰かに来てもらって体験活動をしてもらったりと、いろいろな企画をやっていけばよいのではないのでしょうか。今までと少し見方を変えることで、食育はもっと広がりを見せる可能性があると思えます。</p> <p>私も以前は食育についてあまり考えていませんでしたが、今振り返ってみるとあの時のあの活動もそうだったのかなと気づくことが多くあります。主催者側が食育の視点をもって説明をしたり、なぜこのようなことが必要なのかという話をする中で、協力者や参加者の意識も変わってくるかもしれません。今、忍者学校のカルタ塾でもあまっこ食育カルタをやらせており、正月のもちつき大会では親と子どもと一緒に参加する食育カルタ大会の実施を予定しています。またその場では、田能の里いもを使用したのっぺい汁を提供して一緒に食べるという企画もしており、これもひとつの食育です。工夫してやればいろいろできる可能性はいくらでもあります。社協や自治会といった地域がどう実践していくか、そこのところがまだまだ遅れていると感じています。典型的なモデル事業をもっと作っていかねば、いくら行政が動いても地域に浸透していかないのではないかと思っています。</p>
会長	<p>整理をすると、まず 1 つ目に、すでにいろいろなところで取り組みがされているにも関わらず、その情報が集約されていないために需要と供給をうまくつなぐことができていないのかもしれないと</p>

	<p>ということかと思えます。需要や供給についてのそれぞれの情報をうまく集約するような機能や働きかけができれば、そこを結びつけていくことができるのかもかもしれません。その機能をどこが担うのかは分かりませんが、行政が窓口的な立場になることができれば、これについては進む可能性があると感じました。</p> <p>2つ目に、せっかくいろいろ行われている取組みが、どうも食育という1つの枠の中には入っていないということです。これについても1つ目と同じようなことかもしれませんが、所定のフォーマットかなにかをまとめてきちんと情報収集しておけば、取組みをつなげたり、取組みをしている団体どうして実施をお願いしたりすることができます。尼崎市の食育をもう一ランクあげることを考えるうえですでにある資源を活用することは大切であり、そのためには、情報の集約を行い、それをつなげていくということが必要だというご提案をいただきました。</p>
委員	<p>コープこうべは商品を提供している側ですが、生活協同組合ですので、組合員が自主的に様々な活動を行っています。こども食堂も始まりつつありますし、また、料理サークルも定期的に活動を行っています。料理サークルメンバーは比較的年配の方が多く、これまで講師を呼んで料理教室というかたちで行われていましたが、今年の夏休みは、初めて子どもたちにも目をむけ、メンバー自身がボランティア役になって、地域の子どもたちにクッキングを体験できる場を設けるという取組みを行いました。子どもたち自身が料理をして食に興味を持ってもらおうということが目的です。このような動きは立花店だけではなく、コープこうべ全体にも広がっています。ただし、先ほどの事務局からの説明にもあったように、このような活動は実施するだけではなく、地域に伝えていく工夫も必要です。活動事例を地域にもっと広く見せていくために、買い物に来られた方の目に留まるよう、このような場を店舗の中に設けたスペースで実施したいと考えています。残念ながら立花店には空きスペースがなく、別棟の集会室での実施になりましたが、余剰スペースがある他店舗では、キッチン器具をそろえた場を店舗内に作るよう検討されています。子どもたちを巻き込んだ活動を実施し、それを上手にみせることで、口コミ等で活動自体が広がることが予想され、広報媒体として非常に効果的ではないかなと思います。</p> <p>食の提供という面でも、フードロス等まだまだ取組むべき問題はありますが、まずは「子ども」に視点を置いた活動、場の提供に取組み始めたところでは。</p>
会長	<p>食事を提供しているという立場で、吉井委員はいかがでしょうか。</p>
委員	<p>私の食堂では野菜中心の定食を毎日提供しています。サラダ、副菜2品(日替わり)、メイン(選択制)、味噌汁(日替わり)、麦ご飯のパターンで、ご飯はお替わり自由にしています。多い時ではご飯を6升くらい炊き、副食の仕込みも大変ですが、地域になかなか定食屋がなく珍しさもあってか、たくさんのお客さんに来ていただいています。お昼時はお母さん達が多く、今日も赤ちゃんを抱っこしたお母さんが来ていました。夜は独身の方が中心です。その世代は毎日同じようなコンビニ弁当等を利用することも多いため、「今日の副菜何ですか?」と聞いてくれることも多く、日替わりでの提供を楽しみにしてくれています。私自身そこまで深く、難しく考えてやっていたわけではありませんが、よく考えてみると、定食のメニューはこのリーフレット「赤黄緑 3つのグループをそろえて食べて元気な体を作ろう!」のような構成になっているなど気づきました。もちろん商売ですので、コストとの兼ね合いもあります。その中でも、90%くらいは手作りのものを提供することを心がけ、うちのごはんを食べてくれたら少しでも健康になれるという思いを持って日々作っています。</p>

会長	今の話にあったような、バランスの良い食事を提供しているところに対して、認証制度のようなものを尼崎市では定めているのでしょうか。
事務局	尼崎市独自ではありませんが、兵庫県の「健康協力店制度」があります。登録できるお店は、バランスの良い食事や野菜たっぷりメニューの提供、栄養成分表示の実施などに取組んでいる店を「食の健康協力店」として登録しています。
会長	たしか兵庫県では、その店をホームページに掲載していたと思いますが、そうでしょうか。
事務局	県内の情報が掲載されています。大型店やコンビニがほとんどであり、個人事業で登録している店はまだまだ少ないという状況です。
会長	尼崎市として、そのような制度をまた別枠で設けることは考えているのでしょうか。
事務局	今のところは考えておりません。栄養成分表示については、尼崎市独自で細々と実施しているところではありますが、登録せずとも栄養成分表示は普及しております。
会長	今、6名の委員から貴重なご意見をいただきました。伺っていると、おそらく市や保健所が把握できていないところでのいろいろなことが実施されているのではないかと思います。それをきちんと整理して市民に発信する、活動や人をつなげる、啓発をする必要があるでしょう。この点については今後の検討課題になると思いますので、事務局の方で検討いただきたいと思います。
事務局	ひょうご食育月間にあわせた食育の取組み予定を情報共有させていただきます。(資料5) 10月は兵庫県の食育月間であり、県下全域で一体的に食育を推進しています。尼崎市においても、9月～11月には地域の様々なところで取組みが行われています。
委員	11月11日(土)に医師会主催で「糖尿病フォーラム」を開催します。内容としては、糖尿病の病態、腎臓や血管への影響について講演した後、ディスカッションする場を設けることを予定しています。また今回は、園田学園女子大学のご協力もあり、食育 SAT システムを活用した糖尿病教育、実際に糖尿病食がどのようなものなのか見てもらえるようなコーナーの開設も予定しています。
事務局	先ほど、体に良い食事を提供している等の店が登録できるような制度はないかという話がありました。それについて補足します。尼崎市ヘルスアップ戦略事業の中で未来いまカラダポイント事業というものがあります。これは、体に良い食事を提供している団体や、そういう商品を取り扱っている企業等に協賛いただき、市民の方の健康づくりに対する取組みを応援しようという制度です。協賛企業として登録しているのは、ブランパンを販売するローソンや、サラダ等を組み合わせたメニューを提供するマクドナルドの他、いくつかレストランもあったかと思います。
会長	それは事業所側から申請をすればいいということですか？
事務局	多少ご協賛をいただきながらにはなりますがそのようなかたちです。
会長	今後の取組みに関する情報は、市報やホームページ等で発信されているのでしょうか。
事務局	市民が参加できるイベントを中心に、ホームページやフェイスブックを通じて情報発信していく予定です。この情報以外にも新たに計画されているイベント等がありましたら、情報提供をお願いします。
会長	食育月間のイベントでもいくつかお名前があがっている「食育サポーターの会」はどのような活動をしていますか。
委員	農業祭には毎年参加しています。そこでは、自分たちの頭文字で1枚ずつ、食に関する言葉を

	書いた大きなカードを作ります。1人ずつそれを発表した後、それを活用して参加者でビンゴゲームを行います。ビンゴになった人には景品として、農政課のご協力を得て野菜を用意しています。いつも盛りあがりますね。その横では子どもたちを対象に、食育カルタや野菜釣りゲームを実施し、食の大切さを伝える活動をしています。
会長	小学校では、昨年、100周年記念献立として尼いもを使用した給食を提供したとお聞きしていますが、中根委員の方からご意見いただけますでしょうか。
委員	<p>尼いもは尼崎市で古くから栽培されてきた食材です。100周年のことと合わせてそれについて説明をして、実際に給食を食べるという流れで実施しましたが、子どもたちには好評でした。また、取材にも来ていただき、PR活動に少しは貢献できたかなと思っています。小学校でも子どもたちにとって体験活動は非常に有効だと考えています。自分たちが作ったものを食べるという取り組みは、苦手なものを食べたり、少しずつでも好きになっていったりということに一役かっていると思います。ですので、全ての学校で、生活、総合、理科いずれかの授業で使用する食物を収穫して、家庭科の授業で調理をして食べるということに取り組んでいます。</p> <p>また、内田委員からご提案があったように、学校が自ら外に出て行って場所を探したり、地域での実施を考えていることについて学校も何か一緒にできることはないかお声掛けをいただいたりということもひとつの方法だと思います。もちろん全てにおいて協力できると言われるとそのようにはいかないと思いますが、最近の話題で言えば、各地で立ちあがってきているこども食堂です。学校が直接関わることは難しいかもしれませんが、子どもたちにチラシを配ったり、教員が空き時間に少しでも様子を覗いたりということはできるのかもしれませんが、そのような場できっと子どもたちはいろいろなことを喋ると思いますし、それを情報交換することによって、また別の意味で子どもたちのことを知ることができます。</p> <p>最後に情報発信についてですが、初めの「簡単！朝食レシピ」の説明にもあったように、チラシにQRコードをのせておくような方法は有効ではないでしょうか。様々な取り組みをホームページ等で発信していくとのことでしたが、実際こういったページにはなかなかたどりつけないということが現状です。私たち教職員であっても、興味・関心がある学校行事の部分を全て見ることができると言われるとなかなかそうはいきません。チラシやイベントの場にQRコードがあれば、スマホですぐにアクセスすることができ、広報媒体として有効に活用できるのではないかと思います。</p>
会長	子どもたちにとって体験活動は非常に大切であるということでした。またホームページについても、充実させるほど知りたいページが奥底になってしまってたどりつけないという課題に対して、チラシやポスターにQRコードをのせておくことは有効ではないかというご意見でした。

3(2). 食育推進計画(第2次)の進捗状況について (資料6, 7)

会長	次に、食育推進計画(第2次)の進捗状況について、事務局より説明をお願いします。
事務局	<p>第2次計画においては、「みんなの『いただきます』『ごちそうさま』が人をはぐくむ あまがさきをはぐくむ」という基本理念のもと、3つの目標と13の評価指標を設定しています。食育は事業の評価や成果を見ることがなかなか難しいですが、計画の策定年度(平成26年度)の実績を基本に、最終年度(平成32年度)に目標値を設定して、達成状況や取り組みの効果・成果を見ようとしています。</p> <p>(資料6「食育推進計画の進捗状況について」)</p>

	<p>朝食の状況では、重点取組である「毎日朝食を食べる子ども」の割合は、変化がみられませんでした。一方で、いきいき健康プラン尼崎のアンケート調査結果から、ほとんど食べない人(欠食)の割合を、男女別でライフステージを通してみたデータが上段のグラフです。</p> <p>男女ともに年齢があがるにつれて欠食率が高くなり、男性は30代、女性は20代で最も高くなっています。平成23年度の結果と比較してもその割合は大幅に増加しています。この世代は子育て世代でもあり、若い世代に対する取組が必要で、また、本市小学生、中学生における欠食率は、全国と比較して高いという結果でした。</p> <p>食事バランスについては、国の指標を参考に「主食・主菜・副菜を1日2回以上食べる人の割合」で見ることとし、評価指標としています。子どもよりも、20代や30代の働き盛りの若い世代でその割合が低いという結果でした。</p> <p>主食・主菜・副菜がそろったバランスの良い食事が「1日2回以上ある」と回答した人に、その頻度について聞いたところ「毎日ある」と答えた人の割合は、20代で46.2%、30代で44.4%と、他の世代に比べて低いという結果で、朝食の欠食状況と同様、若い世代に課題が見られました。</p> <p>また、食を通じて豊かな心を育むため、1次計画から継続的に、一緒に食べる「共食」を大切に取組みをすすめています。朝食の共食状況について、「いきいき」のアンケート結果では、1歳半児、3歳児ともに8割程度が朝食を家族そろって食べるか、または大人の家族の誰かと食べると回答しています。しかし、ひとりで食べると回答した割合が1歳半児で5.9%、3歳児で3.9%あり、その子どもたちの親は、食事の困り事について「小食」「むら食い」「食べるのに時間がかかる」を悩みとしてあげた割合が高い傾向でした。</p> <p>朝食時の「共食状況と食事バランス」についての関係を見ると、大人の家族と食べる子どもの方が子どもだけで食べる子どもより、主食・主菜・副菜がそろった回数が多い傾向にありました。また、「共食状況とあいさつ習慣」との関係においても同様に、大人の誰か又は、家族そろって食べる子どもの方が食事の際にあいさつをしている割合が高い傾向にありました。</p> <p>食育への関心については、75%程度が「関心がある」と答えています。しかし、食育について大切に思い、次世代に伝えたいと思う事柄では、「栄養バランスのとれた食事」や「家庭の料理や味」については最も関心が高く60%ありましたが、「食前食後のあいさつ習慣」や「食を通じたコミュニケーション」は前回(H26年度)調査に比べて大幅に下がる結果でした。</p> <p>朝食の欠食状況や主食・主菜・副菜のそろった食事バランス、共食などから、新たな課題もみえてきました。</p>
<p>会長</p>	<p>市民の皆さんの食育に対する関心はますますあるものの、食に関する実態は厳しいという内容であったかと思えます。委員の皆様からご意見をいただきたいと思えます。</p>
<p>委員</p>	<p>毎年指導者にむけて講習会を開いているなかで、スポーツと栄養に関するテーマを必ず設け、園田学園女子大学の松葉先生や武庫川女子大学の先生にご協力いただいて研修を実施しています。子どもたちに対しては、野外活動の中で自分たちで作って食べるということをやっています。今年は焼きそばを作りましたが、包丁を持たない子が多いなと感じました。小学校5年生くらいになると家庭科の授業があるので変わってくるのかもしれませんが、今回4年生の子を見ていると包丁をなかなかうまく使えず、野菜の切り方もわからないといったような状況でした。教えながら一緒にやっても見ているのが怖いなと思いました。</p>
<p>会長</p>	<p>保育所や幼稚園では、子どもたちの様子や保護者の食育に対する関心はどのような実態でしょ</p>

	<p>うか。私が以前聞いた話では、保護者が朝食を食べていないため子どもも食べさせてもらえないまま保育所や幼稚園に登園してくるということもあるようでしたが。</p>
委員	<p>おっしゃった通り、お母さん自身が朝食を食べないからその習慣が子どもたちにもないということはありません。また、保護者に対してアンケートをとるなかで、1人で食べているという回答はありません。少し話を聞いてみると、自分には食べる習慣はないが、子どもには食べさせないといけないという思いがあって食べさせるようにしている、ただその場には一緒におらず子どもだけで食べているというような状況でした。お母さんも一緒に食べたらずと話はするようにしていますが、分かってはいるものの忙しい等の理由でできないということが現状としてあるようです。</p>
委員	<p>パンを食べさせながら自転車に乗せて登園してくるような子どももいます。乳幼児の場合、朝食を自分で作ることはできないので親の責任になってくるかと思います。</p> <p>園では5歳児になればちょっとしたクッキングや自分たちで収穫した作物を使用して料理体験をするという取り組みをしています。私どもの園は杭瀬にあり、昔は園田地域で収穫体験をさせていただいていましたが今は伊丹の方にお世話になっています。もちろん尼崎市内でできればとは思いますが、悩みながらも今はそのような状況になっています。</p> <p>また、今までは調理室で切ったり調理したりしたものを給食として提供していましたが、今年度からは皮をむく前の状態も見せながら子どもたちに話をするという取り組みを始めました。その結果、その食べ物に関心をもつ子どもも見受けられるようになってきています。そのような取り組みを保護者に向けてお手紙で情報発信していますが、お手紙を見ない家庭も実際にはあります。その日の取り組みを教室に掲示したり、兵庫県の私立幼稚園の中にある幼稚園ネットというものを活用して、携帯で見ることができるようになっています。何とか保護者の方に知ってもらうために様々な手法を考え、実施しているところです。</p> <p>昨年は、ロシア出身のお母さんがいらっしやだったので、5歳児の親子に希望者を募り、ロシア料理のボルシチをみんなで作ってみようという取り組みをしました。本場の味を教えてくださいだったので日本人にとってはおいしいと感じ難い味で、部屋を出てから、「あんまりおいしくなかった」という子もいました。しかし、その場では「おいしい！」という子が多く、教えてくれたお母さんに対しても「ありがとう！」という声がたくさん聞かれました。</p> <p>幼児の場合は、いろいろな取り組みを保護者を巻き込みながら実施できるように手法を考え、その実施したことをいかに伝えていくかを考えていくしかないかと思います。</p>
会長	<p>子どもたちの食育をやる以前に、親御さんである若い世代に対する食育をやっていかなければいけないという典型的な例をお話しいただけたかと思います。</p> <p>若い世代の買い物の状況など、緑委員はいかがでしょうか。</p>
委員	<p>昨年参加させていただいた時に、若いお母さんたちが菓子パンを次々に買って行く光景が異様に映ったという話をしたかと思います。もちろん子どもたちの朝食に利用しているかはわかりませんが、働いているお母さん方が増えるなかで、子どもたちにしっかり朝食を作る時間がなく菓子パンになっているという傾向もあると感じました。お買い物の状況を見ても、菓子パンに対するニーズは非常に高いと感じます。その菓子パンの幅もどんどん広がっており、お菓子っぽいものだけでなくお惣菜に近いようなパンも増えてきています。決してそれがいいとは思えませんが、ひょっとしたらお母さん方も甘いパンを朝食として与えることは気がひけるけど、お惣菜に近いようなパンであればいいかなと思っているのかもしれない。調理や商品の幅が広がりをみせるとその分便</p>

	<p>利になりますので、ごはんを作る等本来目を向けなければいけないところに向かなくなりつつあるのかなと感じています。</p> <p>今、私のお店でやっている取組みとしては、バランスのとれた食事に興味を持っていただいて家庭での参考にしてもらうことを目的に、市のホームページに掲載されている小学校給食の献立表を店頭に掲示しています。すると買い物に来られた方が晩ごはんのメニューの参考にしたり、子どもたちの昼食の内容をみてかぶらないようにしたりと掲示を見ている姿が見受けられます。</p> <p>お店としても、いかに親御さんを巻き込んでいけるかを視点に、様々な策を考えていかないといけないなと感じています。</p>
委員	<p>私たちの会でも、子どもでも簡単におにぎりやお味噌汁を作ることができるよう、幼稚園やこどもクラブ等で活動を行っています。例えば味噌汁作りであれば、まず味噌と粉がつおを入れ、そこに具として、干しいたげやわかめ、切干大根、とろろ昆布等の乾物を少しずつ入れ、最後にお湯を注ぐだけでできるという工程です。子どもたち自身が具を選んで入れていきますが、このリーフレット「赤黄緑 3 つのグループをそろえて食べて元気な体を作ろう！」にあるように、赤黄緑 3 つのグループが全て入るように指導するようにしています。</p>
会長	<p>子どもたちでも簡単にできる料理の方法を伝える取組みをされているということですね。</p>
委員	<p>ひとつ質問と、あと話を聞いていて感じたことをよろしいでしょうか。</p> <p>朝食の欠食状況において、一番働き盛りであり、一番エネルギーを使い、日本の未来を支えているであろう若い世代があまり好ましくない状態ということでした。おそらく高校や大学での食育ということがひとつ重要なテーマになるかと思いますが、尼崎市内の大学や高校が現時点でどのような取組みをされているのか、朝食の欠食状況を含めて食育をどの程度重要な問題として提起しているのかを教えていただきたいと思います。</p> <p>私は地域で様々な活動を行っていますが、なかなか地域と子育て世代や若者とのつながりが少ないというのが現状です。園田北まちづくり協議会は、地域課題の解決や地域の活性化に取組みながら地域づくりの核となる人材を育成していくことを目的とした県のふるさとづくり青年隊事業に参加して、支援金をいただきながら実施しています。今度、40歳以下の若者20人程度のワークショップを開こうと企画しています。現時点で、コアメンバー13人くらいが集まっていますが、若い人たちが地域課題の解決や地域の活性化という点で食育の問題を取り上げるのかなと考えてみると、たぶんあまり関心がないんじゃないかなと思うのが正直なところです。</p> <p>子どもたちに朝食をちゃんと食べさせているか、バランスのとれた食事になるように気をつけているか、地域の若者と食育の観点で話をしていく機会をもっと増やしていかなければいけないなと今話を聞いていて感じました。</p> <p>高齢者に対するアプローチはまずまずできていますが、若者に対して地域がどのようにアプローチしていけばよいのかは非常に難しい問題です。若者世代にどう食育を伝えていくのか、その役割は学校や幼稚園等もあるかもしれませんが地域の役割もあるのではないかと、そこについてもっと考えていかなければいけないなと思います。</p>
委員	<p>子どもたち・保護者以外では、20代の若い保育士でも朝食の問題はあります。何を食べているのか聞いてみると、飲むゼリーのようなものやカロリーメイト等が聞かれます。テレビCM等の広告媒体でも朝食への活用として取り上げられているものも多く見受けられますし、それがまた駅の売店等で手軽に手に入る環境も、そのような傾向を加速させている要因のひとつかもしれません。</p>
委員	<p>この食育の会に自分が参加している中で、子どもの頃の自分たちのようなパンを片手にランド</p>

	<p>セルを背負って走って学校に行くたくましさがある子どもを増やす方がいいのか、家族そろって食卓についていただきますと挨拶して朝食を食べる子どもを増やす方がいいのかと考えていたところです。また、働き盛りの朝食の問題についてですが、力仕事をしている私たちにとっては朝食はなくてはならないものだと思っています。ただそれが、お腹がすかなかったり、食べなくても午前中の仕事ができる、はたしてエネルギーが足りているのか。</p> <p>時々、子どもたちに「どうやお米炊いたらおいしいの？」と聞かれることがあります。それに対しては、洗って水入れて炊いて、あとはいっぱい遊んでお腹すいてる時やったらおいしいよと伝えます。先ほど簡単に作れるレシピの紹介もありましたが、ニーズがある反面、便利にすればするほどその状況に甘えてしまったり、努力をしなくなることもあるように感じました。</p>
事務局	<p>今の意見を受けてですが、そのような便利な時代に移り変わってきているからこそ、食育計画をたて、改めて食について見直していくという国民運動が推進されています。例えば、あまり噛まなくても体に食物は入っていきます。でも噛まないことによる弊害として、口腔機能の低下や将来の誤嚥性肺炎のリスク等があげられます。世の中が便利になってきているからそれでいいと放っておくと、かわりに大事な機能や能力が失われていくことにつながり兼ねません。そこで、国民運動として、便利なものは便利なものとして活用しながらも、それにただのっかるだけではなく、大事なところはきちんと残せるような取組みを仕掛けの中で見せていかなければなりません。全てをそぎ落とした状態で次世代に渡すのではなく、大事なことは残し、伝えていくために何ができるかを考えて計画を立てていかなければいけないと考えています。</p> <p>今、様々な意見が出ましたが、それは、なぜそのような取組みをすすめるべきかという点につながります。実態に応じてどのような取組みができるか、例えば急に、「赤黄緑 3 色をそろえた朝食を家族みんなでそろって食べましょう！」といっても無理なので、まずはパンだけでも食べることから始めてみようというところからアプローチをして、それを一段階ずつ積み重ねながらすすめていくしかないのかなと考えています。</p>
会長	<p>最後に、三浦委員にご意見を伺いたいと思います。資料からは、尼崎市の朝食の実態や主食・主菜・副菜をそろえて食べる割合等、みかけ上非常に悪いように思えますが、これはどのように捉えたらいいでしょうか。</p>
副会長	<p>資料 7 では尼崎市と全国の結果を比較しています。この結果だけを見ると、市の現状に少し落ち込んでしまうというのが正直なところです。尼崎市はいわゆる都市部の地域になりますが、全国になると様々な地域が混ざってくるので、世帯の年齢層や就労状況等でそもそも違いがあるなかで単純に比較することに少し問題があるかなと思います。都市部の地域で規模や市の状況が似通った地域と比較してはどうでしょうか。そうすることで、今の市の現状がどうなのかがもう少しよくわかるかなと思います。</p>
会長	<p>近隣の市や近畿一円で見てみるなど、もう少し広い視野で結果や現状の評価を行った方がいいということでした。そのうえで、いきなり 70 点や 80 点を指すのではなく、40 点を 50 点に引き上げることから取組むということが大事なのかなと思います。</p> <p>いろいろご意見をいただき、ありがとうございました。</p>
事務局	<p>皆様、本日は様々なご意見をいただきありがとうございました。</p> <p>先ほど、内田委員から高校、大学ではどうなのかというご質問がありました。2 次計画の策定時にも、この時期に対する取組みについて検討しています。ただ、その時点でなかなか高校や大学に対して取組みが行えていない現状であり、そのなかで、いきなりその対象に向けての取組みを</p>

実施できるかと考えると、ハードルは高いものになります。そもそも本来は、小学校や中学校、また就学前の段階で身につけていなければいけないのではないかと考え、まずは保育所等の幼児期、小学校や中学校の段階から手厚く介入していこうというねらいで取り組みが始まったという経緯があります。高校や大学とのコラボもいろいろやっていますが、まずはその前段階での習慣づけというところを大事にしていきたいと考えています。

皆様からいただいたご意見、ご提案は、懇話会の場に限らず、関係する部署や団体、委員の方と情報共有していきながら発信していきたいと思いますので、今後ともご協力のほど、よろしくお願い致します。他に事業のPR等、何かございますでしょうか。この場でなくても、また何かありましたら事務局の方までご連絡をよろしくお願い致します。

それでは、これもちまして、第1回食育推進懇話会を終了させていただきます。ありがとうございました。